

佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観

No.15-01

所在地：新潟県佐渡市
面積：951.8 ha

選定年月日：平成23年9月21日、令和5年9月28日追加
選定基準：二(一)(五)(六)(八))

(1) 概要

佐渡島の南西部、小佐渡(こさど)山地北西端部には、日本海に注ぐ西三川川の流域に砂金鉱床が展開します。古くは、下流域で砂金採取が行われたとされ、中世末期には「西三川砂金山」が所在する中流域に採掘場が移り、山間に鉱山集落が形成されました。近世に入ると、上流域から導水路により水を引き、中流域で堤に溜めた水を使って砂金山の土砂を洗い流して砂金を得る「大流し」により産金量が飛躍的に増え、徳川幕府の財政を支えました。しかしながら、近世中期以降は産金量が減少し、明治5年(1872)に閉山となりました。産金量の減少に伴い農地開拓の努力が重ねられ、砂金採掘跡や堤跡が田畑へ、大流しの導水路は農業用水路へと転用されて、明治末期には農山村へ姿を変え、現在に至ります。

砂金山に囲まれた、鉱山集落を起源とする笹川集落内には、鉱山の繁栄と安全を祈願する神社や、大流しの過程で廃棄された大石を用いた石積みが残ります。

このように、佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観は、砂金採取によって発生・発展し、産金量の減少に伴い、その跡地と技術を活用しながら農林業へと生業を変化させた集落のあり様を伝える文化的景観です。



砂金山に囲まれた中流域の笹川集落全景



砂金採掘が行われた西三川砂金山「虎丸山」

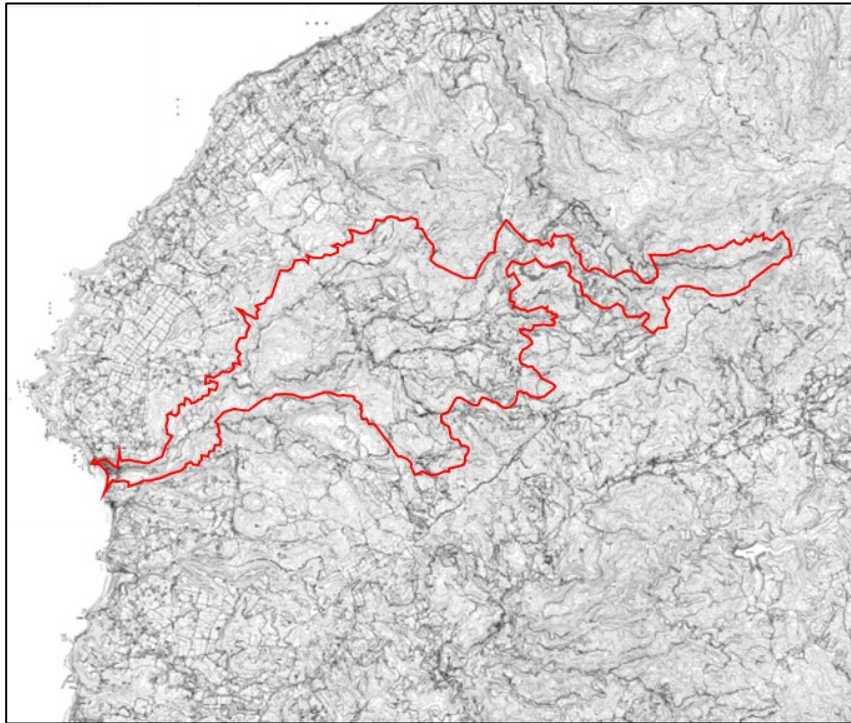


ガラ石と呼ばれる廃石による石積み



大流しに用いられた上流域の導水路跡

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：11件

（３）選定による効果

山間部に位置する佐渡西三川の笹川集落では、人口減少などにより、集落機能の維持が年々深刻化しています。重要文化的景観の選定以後、砂金採取が行われてきた集落の歴史を伝えていくため、平成22年に住民組織「笹川の景観を守る会」が発足し、来訪者向けのボランティアガイドや草刈りなどの景観保全活動が実施されています。

また、佐渡市と連携を図り、子ども向けに自然の河川で行う砂金採り体験や集落散策などが定期的に行われるなど、話し合いを重ねながら景観の維持、形成を行っています。



住民による集落ガイド



砂金採り体験

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 佐渡西三川の農山村景観保存調査報告書（平成23年3月、佐渡市）
- 佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観保存活用計画（令和5年6月、佐渡市）
- ホームページ <https://www.city.sado.niigata.jp/site/bunkazai/>
<https://www.city.sado.niigata.jp/site/mine/>

(5) 活用事例

事例15-01,02 ①

民間所有の建物などの修理支援 ～間接事業の佐渡流サイクル～

文化庁補助金

●行政による取り組み

民間所有の建物などの修理事業に対しては、佐渡市が、工事経費の補助に留まらない、技術的・経済的な支援を行っています。

市は、1年目に修理要望の把握と集約、2年目に建物の調査と設計図書の作成、3年目には補助金の交付に加えて工事監理業務を担っています。毎年、複数の事業を実施するため、全体としては1年目・2年目・3年目段階の異なる事業が並行して行われる状態が保たれており、独自の事業サイクルを構築しています。

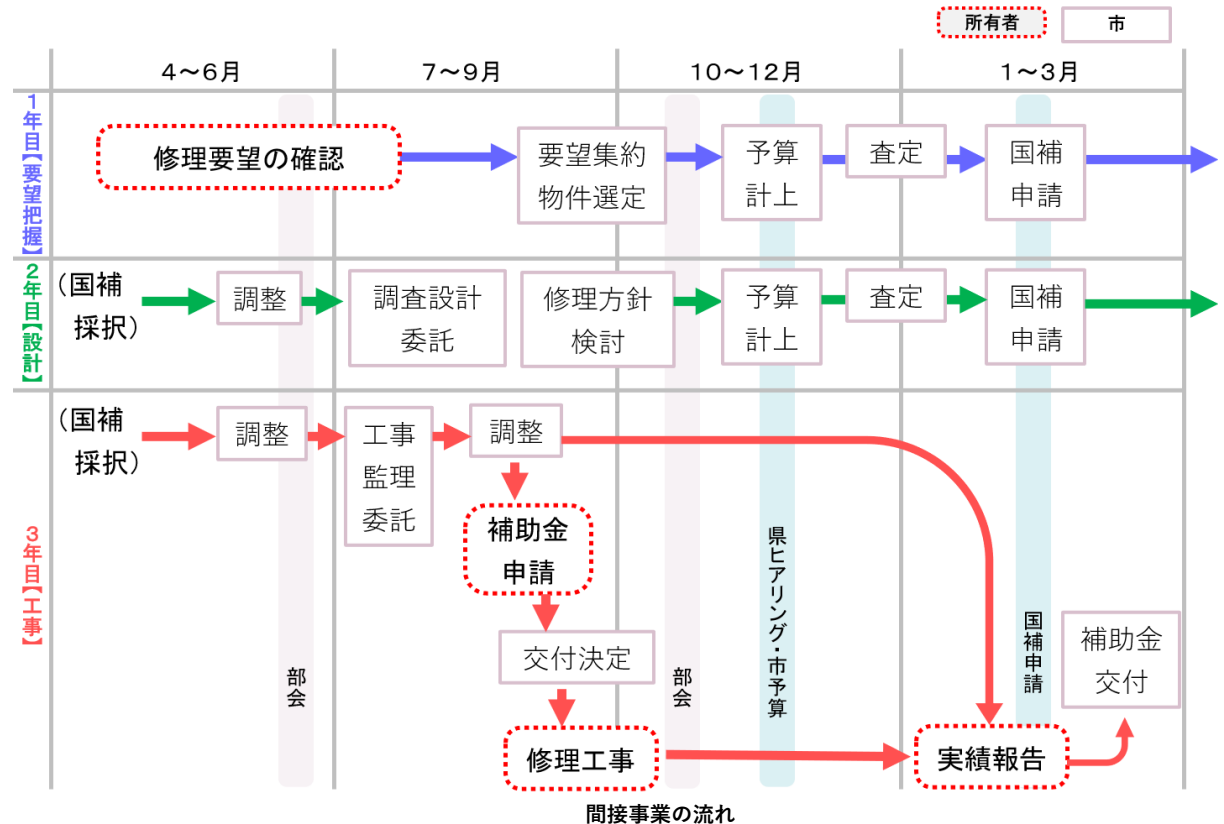
年に2回、補助の対象や修理方針などの検討にあたり専門家から成る部会を開催し、専門家会議に報告を行いながら進めています。歴史の痕跡の一つでも多く残すため、所有者などと協議・検討を重ね、取り替える部材を最小限に抑え、可能な限り古材の再利用を図っています。



集落内の主屋 修理前



集落内の主屋 修理後



修理に携わった人の声

工事では、外壁材や屋根瓦などを一つひとつ丁寧に取り除いて状態を確認するのに苦労しました。でも、こういった取り組みの積み重ねによって、建物や景観が維持・向上していると実感しました。

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人育

(5) 活用事例

事例15-01,02 ②

世界文化遺産「佐渡島の金山」を中心とした、官民一体の取り組み

文化庁補助金

●行政による取り組み

新潟県と佐渡市では、平成18年から「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を目指した取り組みとして、多くの調査成果が蓄積され、文化財の指定、選定、登録などの件数が飛躍的に増加しました。

市内2箇所の重要文化的景観においては、専門家会議や地域住民などとの話し合いにより、歴史的な建物の修理・修景などが進められてきました。

また、平成31年4月には、佐渡金銀山の歴史や文化財の価値を伝えるガイダンス施設「きらりうむ佐渡」が、相川に建設されました。ここを起点に、各地の関連文化財や施設を訪ねてもらうことを目的としています。

景観に配慮した平屋建ての館内には観光案内所を設け、レンタサイクルの貸し出しのほか、来訪者に楽しんでもらえる各種イベントや講演会などを行っています。

施設利用者の声

佐渡金銀山の歴史が4つの映像シアターで、わかりやすく学べました。定期的にイベントも行われているので、子ども達にも親しみやすく、相川に新たな魅力が加わってうれしいと喜んでいます。



佐渡金銀山ガイダンス施設 きらりうむ佐渡



重要な構成要素でもある
重要文化財「松栄家住宅」(平成30年指定)



まちを知るための企画展(風景展)の実施



住民も出演した、ガイダンス施設の映像

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・

（５）活用事例

事例15-01 ③

集落の強いつながりを活かし、大切にした整備・活用アプローチ

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

かつては砂金採取の中心地で、現在約60名ほどが暮らす笹川集落は、地域のつながりが強く、地域住民が組織する保存会もあり活発です。

平成24年には、保存会を中心に笹川流のデザインを考える「笹デ会」が結成され、行政、専門家、学生アシスタントなどが関わり、解説サインの設置位置やデザインなどについて意見を出し合い、市事業として案内マップの作成、解説サインの設置などを実現しました。

近年では、草刈りのほか、「佐渡金銀山ガイドンス施設きらりうむ佐渡」（事例15-01,02②参照）で上映される、砂金採取について伝える映像に住民が出演するなど、住民と市との協働は多岐にわたっています。

また、集落の歴史や特徴を伝える2つの拠点づくりと、これに合わせた情報発信や受け入れ態勢の整備も進んでいます。市では、集落で運動会、収穫祭、笹話会などが行われている旧西三川小学校笹川分校にガイドンス機能を付加する整備を行いました。また、名主を務め、明治の初めに砂金山開発の跡地での農地開拓を推し進めた金子勘三郎氏の旧家を修理し、当時の暮らしを伝えるための整備も進めています。

✓ グッドデザイン賞（平成25年）



家山子型看板の設置。グッドデザイン賞を受賞



整備後に設けた笹川分校内の展示パネル



旧笹川分校で行われている、子ども向けの鉱山学習



集落の景観を維持する草刈り

集落の人たちの声

集落の人たちは砂金山の閉山後も、この地にとどまり、暮らし続けてきました。現代の課題に向き合いながら、先人たちが残してくれたこの宝物を、できる限り引き継いで、残していきたいと思います。

① 地域内での
魅力の共有② 活性化の
共有③ 広域外への
広報④ 魅力を引き
出す⑤ 財源と
確保と運用

⑥ 人づくり